



## 再読！『甲子園への遺言』

校長 海 頭 巖

NHK大河ドラマ『花燃ゆ』をご覧になっていませんか。11%程度の低視聴率と言われていますが、はや第21話が過ぎました。低い低いと視聴率のことばかり取りざたされていますが、意外と面白いと感じているのは私だけではないと思います。幕末から明治の初めは、難しい歴史用語が多く、また出来事が入り組んでおり、何となく理解しにくいと思っている人も多いことでしょう。ちなみに私は、かつて読んだことのある本を引っ張り出しては、復習？予習？をして『花燃ゆ』を観ている次第です。

本を探しているとき、ふと、かつて読んだ『甲子園への遺言（伝説の打撃コーチ高島導宏）』という一冊の本に手が伸びました。これはNHKドラマ『フルスイング』の原作であり、主人公のモデルになった人についてのものです。

今回は、『<sup>たかばたけみちひろ</sup>高島導宏』という人の話を紹介します。

高島導宏さんは、高校教師でした。彼は平成16年夏、還暦を迎えてわずか半年足らずのまだ60歳の時、すい臓ガンでなくなりました。この高校教師は、ちょっと変わった経歴の持ち主なのです。実は、なんと約30年間にわたって、プロ野球の打撃コーチを務めていたのです。渡り歩いた球団は7つ。独特の打撃理論とずば抜けた洞察力で選手たちを指導し、時には相談に乗り、汗と涙を共にしながら、気がつけば延べ30人以上のタイトルホルダーを育て上げていたのです。その中には、ご存知の方も多いと思いますが、元中日監督の落合選手や、メジャーリーガーのイチロー選手も教え子の一人なのです。しかし、この伝説の打撃コーチは、50歳代半ばで一念発起し、高校教師になるために通信教育で勉強を始めるのです。そして5年をかけて教員免許をとり、社会科の教師として教壇に立ち、甲子園をめざすのです。彼の育てたチームは、着々と成長していくのですが、志半ばで、病に倒れるのです。

長いプロ野球の打撃コーチ時代に感じたことを彼が周囲の人に語った言葉のなかに、次のようなことがあります。『挫折していった多くの選手と成功（成長）した選手の間には、はっきりとした違いが見えてきた。それは、成長する選手にはいくつかの共通点がある。』として、次の7点を挙げていました。

- |                           |               |
|---------------------------|---------------|
| 1 素直であること。                | 2 好奇心旺盛であること。 |
| 3 忍耐力があり、あきらめないこと。        | 4 準備を怠らないこと。  |
| 5 几帳面であること。               | 6 気配りができること。  |
| 7 夢を持ち、目標を高く設定することができること。 |               |

このことは、野球のみならず他の運動や勉強にも、大いに当てはまることだと思います。改めて読んでみて、命と情熱の『花燃ゆ』を心に強く感じた次第です。